

抽象体／具体者 [(独) Abstraktum／Konkre-  
tum]

領域的存在論の観点から見られた非独立的対象と独立的対象の区別。独立性との定義上の関連は契機／断片の区別とほぼ重なり合う。抽象体とはある全体に対して非独立的部分となるような対象であり、具体者とは非独立的部分をもつような独立的対象である。この区別は相対的であり、それゆえいかなる対象もその抽象的部分（契機）に対しては相対的具體者と呼ばれ、それ自体としていかなる観点からでも抽象的でないような具体者は絶対的具體者と呼ばれる。したがって断片はまた具体的部分とも呼ばれる [LU II/1 267f.]。他方、事象内容を含んだ本質という対象領域においては非独立的な本質が抽象体であり、絶対的に独立的な本質が具体者である。さらに、事象内容を含んだ自己の本質が具体者であるような、ここにあるこのものが個物である [Ideen I 29ff.]。たとえば赤や三角形は抽象体であるが、視覚映像としての赤い三角形は具体者である。また具体者を包摂する類は実在的事物や体験などであるのに対し、抽象体を包摂する類は空間的形態や視覚的性質などである。アプリオリな総合的真理を規定するのは領域的本質であるが、その領域とは、具体者において事例化されている最上位の類の全体的統一のことである。つまり領域の外延には、形相の面ではそうした類のさまざまな差異の複合体が、また個物の面ではそうした具体的本質を備えた可能的な諸個物が含まれている。→㊦契機／断片，独立性／非独立性，領域的存在論 (柴田正良)